



SINAP Journal

Summer 2024

SPECIAL ANNIVERSARY ISSUE

<https://sinap.jp/>

 <https://www.facebook.com/sinapinc>

 @sinapinc

 info@sinap.jp

SINAPSERVICE

私たちにご相談ください



UXデザイン

ユーザーのことをよく理解し、サービス全体の中でその体験がどうあるべきかを、ユーザーの視点、ビジネスの視点それぞれで考え、課題の抽出、要件定義、解決策の提示を行います。フロントのデザインやUIといった表層的な部分だけでなく、機能やインフラ、さらにサービスを実現するための運用やオペレーションまで、サービスを取り巻く広い範囲で考えることが得意です。



Web 戦略

ビジネスの戦略に基づいてWebに関する戦略の立案・策定を行います。Webサイトやアプリ・EC・SNSなど複数のチャンネルをどのように活用して効果を出していくか?といったWebの活用方針から、Webサイト・アプリの運用管理、アプリケーション・インフラにまたがるセキュリティなど、会社の実情に即し実行可能なWeb戦略をご提案します。



制作・開発

私たちはUXデザインで導き出した理想を実現する高い制作・開発能力、そして遅滞なくプロジェクトを進行し適切な品質を担保する能力を有しています。プランニングから制作、運用まで一気通貫で行えるのも私たちの強みです。



グロース・運用

専門チームによるアクセス解析を元にしたUI/UXの継続的改善活動、ABテスト/MAツールを用いたCVR向上のためのテスト支援、メディアの運用など様々な支援を通して、サービスの継続的な成長をお手伝いします。



新規事業開発

UXデザイン、リーンキャンバスなどの手法を用いて、ビジネスプランを具体化していきます。プロトタイピングを行い、迅速に仮説検証を行うことで、PMF(プロダクトマーケットフィット)の状態にいち早く到達することを目指します。

Celebrating 20 Years

シナップ設立20周年のご挨拶

平素より格別のご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。

2024年8月5日をもちまして、弊社は設立20周年を迎えることができました。これもひとえに、日頃よりお世話になっているクライアントの皆様、スタッフやパートナー、そしてそのご家族の方々のご支援の賜物です。心より感謝申し上げます。

「デザインの力で新しい価値を創造し、世界をよりよく変えていく」というビジョンのもと、私たちはこれまで多くのWebサイトやサービス・システムの立ち上げやグロースに携わってまいりました。本質的な課題解決に貢献したいとの思いから、ユーザーとビジネスの深い理解を基にした課題の発見と定義、デザインやテクノロジーによる解決、それを継続的に回すための改善サイクル作りに拘りながら、プロジェクトの成功や事業成長に寄り添うことを続けてまいりました。支援させていただいているお客様のプロジェクトに多少なりとも貢献できておりましたら幸いです。

この20年間には、リーマンショックや東日本大震災、新型コロナウイルス感染症など、社会的・経済的に大きな変動がありました。多くの困難がありましたが、スタッフ全員の努力とクライアントの皆様のご支援により乗り越えることができました。深く感謝しております。

近年、デザインの対象はWebサイトやアプリにとどまらず、様々なスクリーンデバイスやARなどの新しい領域にも広がっています。また、これまでのUXデザインやデザイン思考を中心とした定性的な手法に加え、2022年からは定量データを基とした改善を行うグロースチームを立ち上げました。今後はこの2本の柱でお客様のビジネス成長により一層貢献してまいります。

最後に、改めまして、これまで様々なプロジェクトをご一緒させていただきましたクライアントの皆様、スタッフやパートナー、そしてそのご家族の方々に心より感謝申し上げます。今後もスタッフ一丸となり、お客様の期待を超える価値を提供し続けてまいります。

今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

代表取締役社長
坂西 裕彰



20th Anniversary

シナップ20周年特集

シナップは、おかげさまで設立20周年を迎えることができました。これもひとえに皆様の温かいご支援とご愛顧のおかげです。

そこで今号のSINAP Journalは、「SPECIAL ANNIVERSARY ISSUE (特別記念号)」として、シナップの20年にわたる歩みやエピソードを特集しております。過去から現在、そして未来への思いを込めて、スタッフ一団心を込めてお届けします。どうぞお楽しみください!

過去から未来へ シナップ20年の歴史とこれから

2024年、シナップは設立から20周年を迎えました。
今回は創業当時のメンバー3人が集まり、設立当初の
エピソードや時代と共に進化してきたステートメントなどを
振り返ります。懐かしいエピソードから未来への展望まで、
20年の歴史を語る特別対談をお楽しみください！

坂西 裕彰 代表取締役 / Producer



小茅 奈美 Designer

大川 貴裕 取締役 / Creative Director

From the past to the future

した人たちが結びつけば大きなことができるという展望があって、その結びつきを脳細胞のシナップに例えた。シナップはインターネットのネットワーク構造に似ているのもあり、ピタリだなんて思ったけど、そのままじゃ弱いなと思いついて、あとと響きの良さどドメインも空いていた(笑)ので決めました。

大川 そこでもちゃんとドメインを調べるのが坂西さんらしいですね。

小茅 みんな繋がるみたいな話でいいじゃんって盛り上がったのをすごく覚えてる。

大川 その意識の高い感じとドメイン屋というギャップがいいですね。

小茅 ビジョンは結構決まるまで時間かかったよね。

大川 本当に、めっちゃめちゃかかまりました。あーでもない、こーでもない。ただ、いま見返してもデザインの本質を捉えていて、今で言えば「デザイン思考」や「UXデザイン」に通ずることをこの頃から掲げていたのは手前味噌ですが、当時から良く考えられていたなと。

坂西 独立前からWebサイトを作るのではなく、それを通してユーザーがどう感じて行動変容につながるかが大切だという考えがベースにあったのが大きいと思う。

The Communication Architectsの時代

Webサイトもようやく紙のカタログの延長から発展してきた頃、まだまだWebがメディアの時代でした。僕は当時首都圏では一世を風靡したフリーペーパー『R25』のモバイルサイトの仕事をたくさん手がけていました。あれが最先端でした。

坂西 この頃モバイルサイトが一気に浸透してカタログ的なサイトから様々なメディアの特性を活かしてどんなコミュニケーションを作るかが重要になってきたよね。

ビジョンの話でも触れたけど、単にWebサイトを作った終わりではなく、どうやってユーザーの行動に変化を起こすかが大切だと考えていた。一方でそこまで考えている人はまだ多くなかった。シナップのスタンスを明確にし、どうして考えたのが「The Communication Architects」のコンセプトメントです。

小茅 ちょっとどスタッフも増えてきた頃で、このステートメントで自分たちの立ち位置が明確になって、組織として生まれ変わった感じがします。

iPhoneの衝撃

大川 それから数年後、業界というか世の中を一変させたという意味でiPhoneの登場は外せませんね。

2008〜9年ごろから急速に普及したFacebookやTwitterといったSNSやiPhone 3GSヒットが大きかった。

坂西 スマホの登場は生活を大きく変えるほどのインパクトがあったし、SNSが流行ったのもスマホの普及が

大きい。そして僕らの仕事もWebがメディアの時代から、Webサービスの時代へと大きく変わっていった。

大川 「見る」から「使う」へ大きくシフトして行ったと思います。

小茅 確かに。レスポンスデザインといった手法や制作ツール、UIに対する考え方もどんどん変わっていった時だもんね。

坂西 この頃、星海社さんと出会うって、当時最先端のHTML5でのサイト構築やStream配信とかいろいろ新しいことにチャレンジする機会をもらって楽しかったなあ。思い返すと、こういう時代の節目節目で一緒にチャレンジできるクライアントに出逢っているのは本当にありがたいよね。

Designs to Grow

小茅 そこから一気にスマホの時代になりましたね。

坂西 スマホを持っていくことが当たり前になって、色々なサービスが増えてくると、ますますデザインは使いやすさや体験を作ることが重要になってきた。作ることは「ゴール」ではなくて「始まり」で、そこから成長させていくという変化から、2015年に「Designs to Grow」にステートメントを変更しました。

自分たちがやっていることが「コミュニケーション」作りだけでは無くなってきていて、よりクライアントの事業に伴走するイメージが明確になったのがこの頃だね。

大川 これも決めるまで相当考えましたが「成長をデザインする」というの

は僕たちをよく表していて気に入っています。

シナップはもともとUXデザインではある程度認知されていたけれど、ABテストをはじめとした定量的なサイトグロースも他にない強み。この両輪で常にクライアントの成長に伴走するよいうなイメージが「成長をデザインする」には出てるかなと。

坂西 このステートメントに合わせて、プロダクションチームとグロースチームという、それぞれに専門分野をもった2チーム体制にしたけど、最近各チームが自分たちの知見を深めるのと同時にチーム同士の協力も進んだのがシナップにとっても大きいと思っています。

もう一つの転換点、コロナ禍を経る

小茅 私はコロナ禍を経てフルリモートの会社になったのがシナップのもう一つの転換点だと思う。

大川 ついこないだのことのようだけど、もう4、5年経ちますね——。

坂西 出社は出社でよい部分もあるけど、これはポジシヨントークになってしまいかもしれないけれど、いま大きなオフィスとか色々手放した視点から見ると、なんであんな重いものを持つていたんだろって。

小茅 スタッフみんなの生活もかなり変わって、中には地方に移住した人もいます。それぞれがより柔軟に働けるようになったのはよかったのかな。

大川 クライアントや会議のテーマに合わせて対面のミーティングももろ

今後の展望

大川 だいぶ最近の話になってきたので、最後に今後の展望について——。

小茅 いきなりまとめました(笑)。

やっぱりAIとか？

坂西 この業界に限らず、今後AIは普通に使いこなしているような社会になるんじゃないかな。人口も減って、どの業界も採用が難しいのも間違いないから。だからAIの活用は前提で、その上で、UXリサーチの例えば観察から洞察を得るような部分は人が必要だったり、僕らがやっていることでもメリハリがついてくるんじゃないかな。

小茅 デザインもバリエーションの数だけでいえばAIで生成できて、テストもできたとして、その上でデザイナーがどう判断していくかという部分は残りそうって思ってます。

坂西 シナップでも今後も積極的に試しながら、いろいろ自分たちのサービスに繋げていければいいなと思ってます。

大川 AI以外でいうと、最近では、UXリサーチやヘッドレスCMSのEpicorMSでのサイト構築、ABテストなどのグロース支援に力を入れています。今後注目しているという意味ではWebサイト以外の業務システムやタッチパネルなどのUI/UXにも注目しています。

小茅 他にも、新しいデバイスといえはVR/MR？

坂西 VR/MRが広く普及するのはまだまだなところもあるけれど、着実に進化しているの、今後もっとどんどん増えていくよね。そうした中でまた新しいサービスや表現が生まれてくるので、楽しみつつキャッチアップしていきたい。

業務システムやタッチパネルAR/MRなんかもそうだけど、基本的にWeb周りのスキルセットで対応できるし、UXリサーチや体験設計なんかはなにをする上でも重要だから、僕らのデザインや技術をいろんな分野に広げて活用していきたいと思えます。

大川 そうですね。時代の節目に良い出会いがあったという話がありましたけど、なにかチャレンジングなことでもシナップなら一緒に面白がるので、は？とお考えの方がいましたらぜひお気軽にご相談いただければ！

シナップオフィス変遷 ニーズもサイズも様々なオフィス達

大きな一軒家を借りてリノベーションしてみたり、コロナからフルリモートへ移行し、コンパクトなオフィスに移ってみたり、20年もあると色々なことがあるものです——。

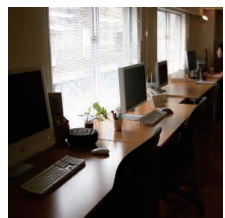
誌面の都合上、ここでは少ししかお見せできませんが、シナップのブログではもっと沢山の写真と思い出を掲載予定です。お楽しみに！



2004年～2005年

創業の地、青山1丁目 青山一丁目

シナップ最初のオフィスは南青山1丁目。いきなり好立地!?と思われるかもしれませんが、実は緑のあった会社さんの一室を間借りしていました。いかにもITベンチャーらしいスタートです。若かった。



小さくとも自分たちの城 神宮前2丁目

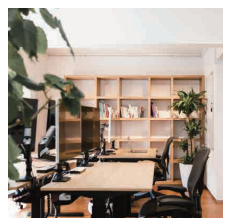
1年後、念願の自分たちだけのオフィスに引っ越しました。マンションタイプの一室でまだまだ小さいオフィスでしたが、ちょっと立派になれた気がしました。



2008年～2020年

まさかの一軒家オフィス 神宮前3丁目

3度目の引越はなんと地下にも広々としたスペースがある大きな一軒家!リノベーションオフィスとして話題にもなりました。シナップといえばここを思い出す方が多いのでは。



2020年～2022年

コロナ禍と改革 神宮前4丁目

コロナによって働き方が大きく見直された2020年。シナップはフルリモートへと舵を切り、12年いた広いオフィスから表参道ヒルズの裏手にあるほどよい広さのオフィスへ。



2022年～現在

リモートワーク特化 神宮前2丁目

リモートワークが進み、オフィスの利用はより限定的となっていた頃、リモートワーク前提の最新型オフィスができたという情報から内見、気に入ってしまい引越してしまいました。



9 成長をデザインする企業へ

2015年、ステートメントを「Designs to Grow」と刷新。「成長をデザインする」クリエイティブカンパニーとして、UXデザインからWeb制作、サイトグロースまで、新しい取り組みを行っています!



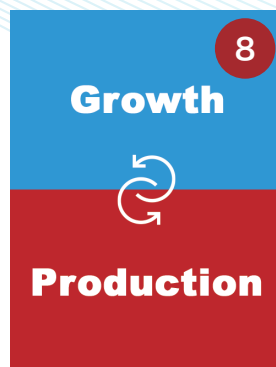
10 驚きの10時間連続Ustream生配信

ライブ配信の先駆けとなるUstreamを活用して、社長に扮した犬(の着ぐるみ)ワン西社長の1日に密着!お客様との打ち合わせや居酒屋での接待と奔走した1日をライブ配信しました。伝説の10時間ライブ!



7 和室会議室、休憩室などオフィス大拡張!

業務拡大にともなって、一軒家オフィスの一階エリアをさらに拡張。もともと和室だった部屋を和モダンな会議室や休憩室に。一般的なオフィスにはない落ち着いた空間がスタッフにも大人気でした。



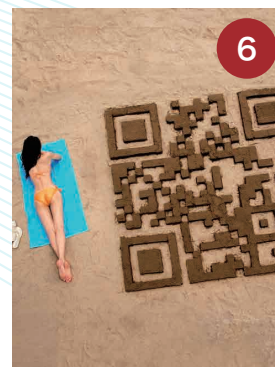
8 グロースチーム、プロダクションチーム

2021年、各自の専門領域の明確化と強化を目的に、UXデザイン、Web制作主体のプロダクションチームとサービスの成長を担うグロースチームへ。シナップの歴史の中では最大の体制変更を行いました。



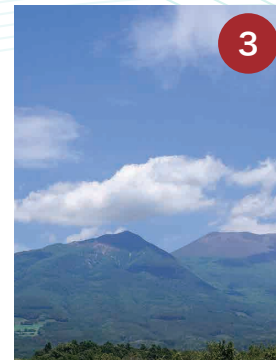
5 様々な仲間たちとのオフィスシェア

一軒家オフィスは当初、自分たちだけではあまりにも広がったため、仲間の会社さん達を招き入れ、オフィスシェアをしていました。写真は毎年恒例だった交流会「ボジョレーヌーヴォー」の会。



6 砂で作ったQRコードは読めるのか?

ちょっとおバカな夏のチャレンジ企画は当時流行り始めていたYouTubeの活用実験。この企画は海外から取材が来るほど話題となり大成功!ちなみにオチはまじめにビーチクリーン活動を紹介しています。



3 コロナによるフルリモート体制への移行

それまでも部分的なリモートワークを行っていたシナップではコロナ禍を契機にフルリモートワークへと移行。スタッフはそれぞれのライフスタイルに合わせて様々な場所で、柔軟な働き方をしています。



4 一軒家をリノベーションしたオフィス

シナップが12年間いた思い出深いオフィスです。地下はもともと倉庫だったところをリノベーションして綺麗なオフィスに。大変でしたが、什器もすべてオリジナルで、自分たち好みの空間を作りました。



1 シナップ ソーシャルグッド 東日本大震災と復興支援活動

シナップの活動のなかで特に思い出深いのがソーシャルグッド活動。特に2011年からはじめた復興支援活動は実際に現地に赴き、地元の方々とお会いして、課題や悩みを直接聞きながら、時には無線LANの設定やクリスマスイルミネーションの敷設など、様々な形でお手伝いを行ってきました。その活動は、一過性で終わらない息の長い活動を目指して、現在もわずかではありますが復興に取り組む現地の方々のお手伝いしています。



2 クリスマスのインターネット上を彩った SINAP Christmas Projectで植林活動

インターネットサイト上に設置したもみの木に訪れたユーザーがクリスマスの飾り付けを行うことができる参加型サイトで、12月の期間中に飾り付けに参加してくれた人数に応じて、SINAPが、大規模な火災被害を受けたインドネシア・カリマンタン島への植林活動を行う「リンカランの森プロジェクト」へ寄付を行うというプロジェクトでした。2005年から2010年の間実施され、クリスマスシーズンはたくさんの方に楽しんでもらいました。

20年の歩みを振り返って、歴史を彩る10のハイライトをご紹介します!

シナップ10大ニュース

思い返せば、これまでもユニークな出来事や様々なチャレンジを行ってきました! 笑いあり、涙あり!のシナップ20年の歴史を楽しく振り返っていきましょう!



2010 SINAP SUMMER 2010 『日本!スイカ道 THE MOVIE』

2010年の夏企画として、さまざまなプロフェッショナル達によるスイカ割りを行いました。居合、ウォーターカッター、ナンチャク、動物園の象さんなど多分野の方々にスイカを割っていただきました。貴重な瞬間を映像におさめたこと、最もスイカを沢山食べた夏として、印象深く記憶に残っています。



ディレクター 鈴木 善明

イベント会社を退職後、シナップのディレクターに。常に複数案件を指揮しながらユーザー視点は絶対に忘れない。私事は写真撮影・映像制作・猫・ランニング。



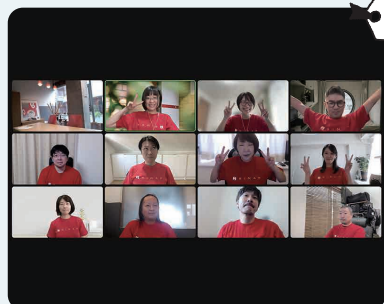
2012 みんなでイルミネーションの飾り付け@陸前高田

震災復興支援で毎週のように陸前高田に通っていたなかでも、2015年の12月に陸前高田の未来商店街でクリスマスイルミネーションの飾り付けをみんなでやったのは思い出深いです。高速バスで早朝について、寒い中一日作業したあとのみんなでたべたカキフライとビールが最高でした!



代表取締役/プロデューサー 坂西 裕彰

Web黎明期から一貫して顧客企業のビジネスに深く寄り添う提案を行い、指揮してきた数多くのプロジェクトはクライアントから高い評価を得ている。WebSig24/7モデレーター。長い黒髪が目印。



2021 完全フルリモート体制に

コロナをきっかけに完全フルリモート体制に移行したことが一番の思い出です。ちょうど子どもが生まれたタイミングだったので、育児の時間を確保できて本当に助かっています。入社していた頃は東京に住み続けるつもりでしたが、フルリモートが落ち着いたタイミングで東京の家を売却し、山梨に移住を決めました。人生が激変しました。



ディレクター 三國 翼

制作会社数社を経て、2012年にシナップに入社。グロスチームのリーダー。年末に山梨県に移住しました。むすこは3歳になりました。



2009 砂のQRコードは読めるのか?

思い出はたくさんありますが、シナップの歴史の中でも外せず、自分が語るに相応しいとすれば「砂のQRコードは読めるのか?」当日、日が昇りはじめた江ノ島片瀬海岸にスタッフ全員が集合し、ぶっつけ本番のロケを敢行。今考えると途方も無い体力を使いました。若かった。



取締役/クリエイティブディレクター 大川 貴裕

多くのWebサイトをはじめ、企業のブランディング、UXデザインなど幅広い分野で活躍している。個人で活動しているグラフィックデザイン分野では国際的なデザインコンペティション受賞歴も。生粋のハマっ子。



2013 先輩から後輩への奢り飯

入社して間もない頃に当時シナップメンバーだった柿内さんにお昼ご飯を奢ってもらったことがあります。後輩ができたらしに奢れ〜という話を聞きながら食べたのですが、受けた恩義を次に回す機会がなく今日に至っています。機会があればといずれ、と思いつつ今日も地元からフルリモートしてます。(写真はディズニーに遊びに行った時のです)



フロントエンジニア 村山 貴裕

地元の制作会社を退職後シナップに入社。現場叩き上げのスキルでコーディングを行うフロントエンドエンジニア。辛い食べ物は苦手、ついでに越後人とは思えないお酒の弱さ。現在地元新潟よりフルリモート中。



2009-2022 シェアオフィスでの楽しい日々

シナップでは10年以上にわたり他社の方々と同じ空間(事務所)で働いてきて案件と一緒に進めることも多かったのですが、同じ場所で過ごしていることもあってか、同じ会社のような距離感で仕事できました。皆さんのスキルが高く学ぶことばかり。夜遅くなると出前を取ったり、そのまま飲みに行ったり、季節ごとのイベントもとても楽しかったです。



デザイナー 小茅 奈美

テレビ局のデザイン部門、大手プロダクション数社を経てシナップ設立に参加。安定した品質を保ちながら新技術との親和性にも優れたデザインと、絶えない笑顔で創業からシナップを支える。福岡在住。



2015-2019 SocialGoodで定期的な岩手訪問

SocialGoodで岩手に定期的に訪問していたこと。東日本大震災がWeb業界への転職のきっかけだったので思い出深い。シナップ入社後、担当として陸前高田や大槌を幾度も訪問し、現地の方との交流や復興が進む町の景色、海の匂いなど肌で色々と感じたことが今も印象深いです。



グロスディレクター/デザイナー 飯山 嘉之

大学でマスコミュニケーションを専攻し、音楽関連企業で経営企画・宣伝販促・営業を経てシナップに。UIデザイン、CMS実装、CV改善を担当。猫、写真、サウナを好むデザイナー。東京から長野県佐久市へ移住し信州を絶賛開拓中。



2013-2020 イベントへ行ったり食べたり飲んだり

入社当初はデザインチームだったので、デザインの展示会やイベントにチームメンバーと行っていました。社外勉強が楽しかったです。それから、ビアガーデンや横浜中華街に行ったりと飲んで食べていた思い出。もちろん仕事もしっかりと...! 厳しさとゆるさと楽しさのバランスがとても丁度良いです。



グロスディレクター/デザイナー 久保田 さや佳

グラフィック・木工・建築・Webデザインと広く学び、広告代理店を経てシナップへ。使いやすさと結果を出せるデザインに挑戦し続けている。最近は休日こどもと何をして遊ぶか考えています。



私とシナップの思い出

2004 to 2024

2004年から2024年までの20年間にわたるシナップにまつわる思い出を振り返りました。楽しかったこと、感動したこと、印象深い出来事、面白い発見など、たくさんの思い出が詰まっていました。



2023 オフ会

実際にメンバーと会うことがないまま入社したため、入社3ヶ月目にチームメンバーに会うため佐賀から東京に向かいました。あまり馴染みのない渋谷の住宅街を一緒に歩いたり、ご飯を一緒に食べるという普通の会社員だったら当たり前のようになっていることをしたのですが、どれも自分から「会ってください」と言わなかったらきっとなかったイベントだっただろうと思います。とても良い思い出です。



ディレクター 平木場 美希

鹿児島県鹿児島市出身。EC専門商社、制作会社でWebデザイナーとして従事した後、より顧客に寄り添った提案を行ってゆきたいと思いシナップに入社。趣味はSNSに流れてくる料理のレシピを試すこと。



2017 入社3日目のデビュー

入社の日曜日に「新しい相談をもらったから一緒に行こうか」と坂西さんと先輩にお客様先に連れて行ってもらいました。仕事へのスピード感や経験が浅いうちでも機会を与えられる環境に驚きましたし、気合いを入れてもらったと感じています。名刺は裏の赤色が表面に写ってしまうため、表裏で交互にしようと良いことも教えてもらいました。



ディレクター 村田 歩美

HCD-Net認定 人間中心設計専門家。Slerでの業務経験を経てシナップへ入社。UXデザインを中心にマルチに活躍するディレクター。大阪生まれ東京育ち。猫と果物が好き。



2006.6.9 ワンルームの中心で入社を決めた若者だった日

初めての就職先を1週間で辞めた直後のぼくは、まだ創業メンバーしかいなかったシナップのワンルームオフィスで、お互いに不安な採用面接を受けていました。冒頭で今日が誕生日だと話すと、目の前の2人が「そんな日にありがとう、おめでとう」、パーティションの向こうで1人が立ち上がって「おめでとう!」、部屋のみんなが拍手、拍手。短い時間だったはずですが、受かったらここに来たいなと思うには十分な長さでした。



パートナー 松島 智

コミュニケーションとデザインの研究で大学院修了後、上の面接の日からシナップ在籍11年を経て独立、以降もパートナーとして深く関わる。屋号 String & Letters (紐と手紙/文字列と文字) のとおり「読む」ためのデザインで評価が高く、開発したEPUBビューワ「Bibi」は世界中で使われている。7月現在、息子は5歳4ヶ月、娘は3歳9ヶ月。



2018-2020 原宿でのランチ

時間の合う人と色んなお店にランチを食べに行っていたのは今思えば良い思い出です。原宿という立地のためご飯屋さんを選び放題。新しいお店を探すもよし、好きなお店にリピートするもよし。帰り道も雑談しながら新しいお店を発見したりするのが楽しかった思い出があります。



フロントエンドエンジニア 小川 大樹

アパレル販売員を経験後、もの作りがしたいという思いからweb業界へ転職。独学でフロントエンドの技術を学ぶ。シミュレーションからFPSまで幅広くゲームが好き。



2012 陸前高田未来商店街のイルミネーション

真っ先にこれが思い浮かびました。イルミネーションなんて自分の家でもやったことなのに、仕事の合間にデザインして、部材の調達して、予算計算して、、、多分最初で最後の貴重な経験です。しかも設置当日シナップのTop2と夜行バスで現地入りという強行スケジュール。みんな若かったですね(笑)。なにより現地の方が本当に喜んでくれて嬉しかった。



パートナー 柿内 暢昌

シナップで7年間Web制作に従事した後、2014年からフリーのフロントエンドエンジニア及びテクニカルディレクターとして活動中。Webアプリのフロントエンド作成、インタラクション、アニメーションの作成を得意としている。屋号はスタジオカッキー (studio-kakky.com) 3度の飯も釣りも好き。



2019 勉強会とお昼ごはん

入社当時、毎月勉強会として各チームの発表があることに驚きました。当時はコロナ前だったので出社していたのですが、そのときにみんなでちょっと良いお弁当を出前して食べるのが楽しみでした。前職は休憩は個々で取るタイプだったので、みんなでランチできるのが新鮮で楽しかったです!



グロースディレクター/デザイナー 竹田 笑里

カメラ専門店Webデザイナーを経験後、より様々なデザインに携わりたいという思いからシナップに入社。趣味は写真撮影と散歩。最近子どもが産まれて、写真を撮るのがよりいっそう楽しくなりました。慣れない育児に奮闘中。



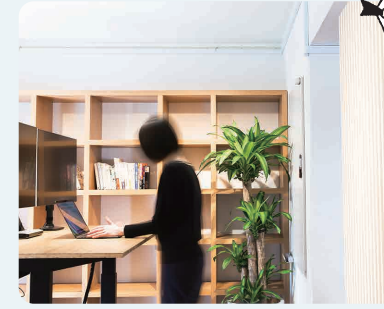
2014-2015 大川さんの100本デザインノック

入社後約1年間、大川さんにデザイナーとしての目や技術、脳をことごとく鍛えていただきました。数個のアイコンやパターを作るのに、何往復もフィードバックしていただいた懐かしい日々。教える立場になってその大変さを痛感しましたし、今の自分の血肉になっているな~と思う今日この頃です。



パートナー 井上(山田) 遼子

美術史を学んだ後、さきの業界での販売や企画営業、三重県庁での勤務など幅広く経験。デザイン系専門学校を経てシナップに3年半在籍し独立。フリーのUI/UXデザイナー、ディレクターとして、各種サービスの企画段階からデザイン面での伴走~要件整理~実制作を行いつつ、大学や専門学校、企業研修での講師も行う。屋号はcocon。



2020,2022 3つのオフィスとこんにちは。

立場的にオフィスとの関わりが強いAdminならではのかもですが、入社からこれまでの2回のオフィス移転が記憶に残っています。地下に作業スペース、1階には和室の休憩室もある、まるで自宅なオフィス。表参道ヒルズ裏の閑静な空気に包まれたおしゃれで落ち着くオフィス。そして今の(誰かが言っていた)探偵事務所のようなこじんまりとして使いやすいオフィス。どのオフィスもシナップらしさがあり、大好きな空間です!



総務/秘書/広報 三木 春香

千葉県生まれ。食品メーカー、人材紹介会社の営業を経験の後、責任を持った自由のもと次代を作るシナップに魅力を感じ、Adminとして入社。好きなお酒はウイスキーの中でもシングルモルト。



2017 オープンハウスの取材がきっかけで。

それはオープンハウスのプロジェクト!コーポレートサイトのコピーも担当させていただきましたが、思い出深いのは建売住宅の取材です。販売前の物件なので誰も住んでいません!少しずつ微妙に違う住宅のPRポイントを探し、悩みながら原稿に仕上げました(笑)。そして、記念すべき第一回取材が西荻。そのときの町の雰囲気が忘れられず、今では西荻の住人です。



パートナー 西口 みな子

大阪で3年、東京の広告制作会社でコピーライターとして12年勤務。金融・流通・住宅・生保・出版等の広告と企画・販促を経験し、フリーランスに。広告から取材記事、コーポレートサイトのコピーまで幅広く手がけている。一番メジャーな仕事は映画『ドラえもん (2006~2013)』のキャッチコピー。



2020 いきなりラスボスが出てくる一次面接

通常の企業は普通、1次面接は現場の上司とかだと思のですが、SINAPはいきなり代表取締役でびっくりしたのが良い思い出です。(いきなりラスボスが出てきた感覚)また、事前に告知されていましたが面接が長く、私は3時間くらいかかりました。入社前からこの会社はなかなかインパクトがあるな~と思っていたのが良い思い出です。(写真はラスボスがここで長時間のzoom面接をしたであろう会議室)



ディレクター 塩入 樹

神奈川県平塚市出身。自動車部品メーカーのEC担当、旅行代理店のWebディレクターを経験後、制作会社で幅広い案件に関わりたく考えシナップに入社。カメラとライブと野球が好き。最近よく週末にライブフォトを撮っているらしい。愛用機はニコン Z7IIとNIKKOR Z 50mm f/1.2 S



2023 シナップさんとの出会い

シナップさんとの出会いは、私の業務委託提携の提案メールに返信いただき、面談の機会をいただいたことでした。面談では私の話も丁寧に聞いていただき、外注パートナーに対してあたたかく接して下さる、なんて素敵な会社様なのだろうと印象に残っています。引き続きお役に立てよう頑張っています。



パートナー 佐山 詩織

フリーランスのWebデザイナー。埼玉県生まれ、埼玉県育ち。大学を卒業後、SES会社に入社し、デザイナー兼コーダーとしてクライアントのサイトの更新業務を担当。退社後、複数の会社からWebサイトデザイン、LPデザイン、パンナーデザインなどの仕事を受託し制作を行っている。



2003 シナップの前日譚

ある日、坂西社長から青山に事務所を借りられそうだけどうするかと持ちかけられ2人で下見に行った。2人ともまだ独立したてのフリーランス。2003年5月30日に機材を搬入(写真は同年6月7日撮影)。その後、ルフィ海賊団みたいに小茅さん、大川さんと続々メンバーが増えていった。チーム名をSINAPIにした。ワクワクしたぜ。



パートナー 小林 竜太

北海道函館市生まれ。2002年デザイナーとして小林商店の屋号でフリーランスに。2003年SINAP設立に関わる。2007年以降は函館市を拠点に活動中。先月、カードゲーム「CMYKカルタバトル」を製作・販売開始。<https://kobashowshop.booth.pm/items/5842157>



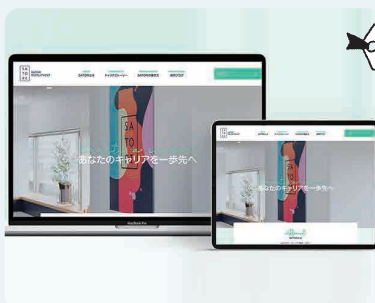
2015 いつも温かい飲み会

シナップといえば飲み会。ボジョレー会やオンライン飲み会などがありました。やっぱり一番記憶に残るのは、私が独立した直後に挨拶に伺った際、とても温かく迎入れてくれたことです。そして、こうして今でも繋がりが続くことができることが、何より有り難いことだと感謝しています。



パートナー 彦根 大和

デザイナー/アートディレクター。制作会社やWebコンサルで数多くのメジャー企業を担当したのち、2015年に長女の誕生を機に独立。独立後はWebサイトやアプリのフロントデザインの他、新規事業のプロトタイプ制作などを主な業務とする。2019年7月に念願の海辺の田舎町に移住。



2020 シナップをクライアントに紹介

HAMWORKSが担当するSATORI社から採用サイト新規制作で、情報設計とデザインの外注先を探していると聞き、シナップを紹介。他にも複数の候補もいた中から選ばれ、その後の進行も提案もデザイン全てが素晴らしく、紹介して良かったと思える事例になりました!



パートナー 長谷川 広武

主にMovableTypeやWordPressの構築やフロントエンド側の制作を行っている制作会社HAMWORKS(ハムワークス)の代表 兼 株式会社カラバン役員 兼 bit part 社員。ニックネームは会社名にも入っている「ハム」、本名が長いために間の5文字が捨てられたのがきっかけ。

いつも 休み、なが(長)っ!

この業界、年末年始やGWはむしろ「最低どれだけ休み取れるんだろう...?」的な会社さんが多い中、SIANPさんの長期休暇は基本長い。以前は18連休とかもあったようで、仕事はしっかり・休むときもしっかりというのが印象に残っています。昔からよく言う「よく学び・よく遊べ」的なやつですかね。



パートナー 大崎 誠

フリーランスのPM。制作会社、Sier等を経て2006年に独立。様々な案件のPM業務や運用コンサルティング業務に従事しつつ後進指導の講師業も行っている。幼児教育や世界の鍋料理探索などもライフワーク。将来はタイに移住するのが目標で、タイ語の学習を継続している。— d-three (ディスリー)

2021 スムーズな会議運営

毎週の定例会議でアイズプレイク的に異なるお題について話していました。個人的にはこれを考えるのが苦手でした。でもこのような仕組みを用意して会議をスムーズに進めたり、進め方を改善したり、お互いを知る事ができたりとメリットは多いと思いました。SINAPさんの振り返り・改善は見習いたいです。



パートナー 柳谷 真志

CMSを中心としたWeb制作会社 bit part の代表社員でディレクター。大規模から小規模まで多くのWebサイト構築案件に関わり、CMS案件の設計業務やプロジェクトの進行管理などのディレクション業務を担当。チームでの開発をスムーズに進められるように日々意識しています。

2022 デイリーMTG

とあるプロジェクトでデイリーMTGとデザイン進捗の確認や相談をする1on1を毎日行っていました。そのプロジェクトが無事終わり、すっかり習慣化していたMTGが無くなってしまって喪失感があった事が今となっては良い思い出です!



パートナー 綿村 和也

フリーランスのデザイナー。山口県生まれ、千葉県育ち。デジハリを卒業後、2003年からSier企業のUIデザイナーとしてキャリアをスタート。父親が元カメラ屋のため、小さい頃からフィルムカメラに親しむ。最近の趣味は娘のために買ったピアノでどの位置から覚えつつアンパンマンの曲を弾くこと。

2018 はじめての訪問

はじめてシナップさんを訪問したのは6年ほど前。一軒家のオフィスが印象的でした。当時は子供が保育園へ通っていたのですが、いろいろと楽しく話していたら気がつけばお迎え時間ギリギリに。ダッシュでお迎えに向かった記憶があります。そんな子供も今は5年生。時が経つのは早いです。



パートナー 赤池 澄子

デザイナー。広告やパッケージなどのデザインに従事した後、Webデザインの世界へ。数社の制作会社勤務を経て独立し、主にWebデザインに携わる傍ら、現在も紙媒体のデザインも行う。

2000 印象的なミーティング

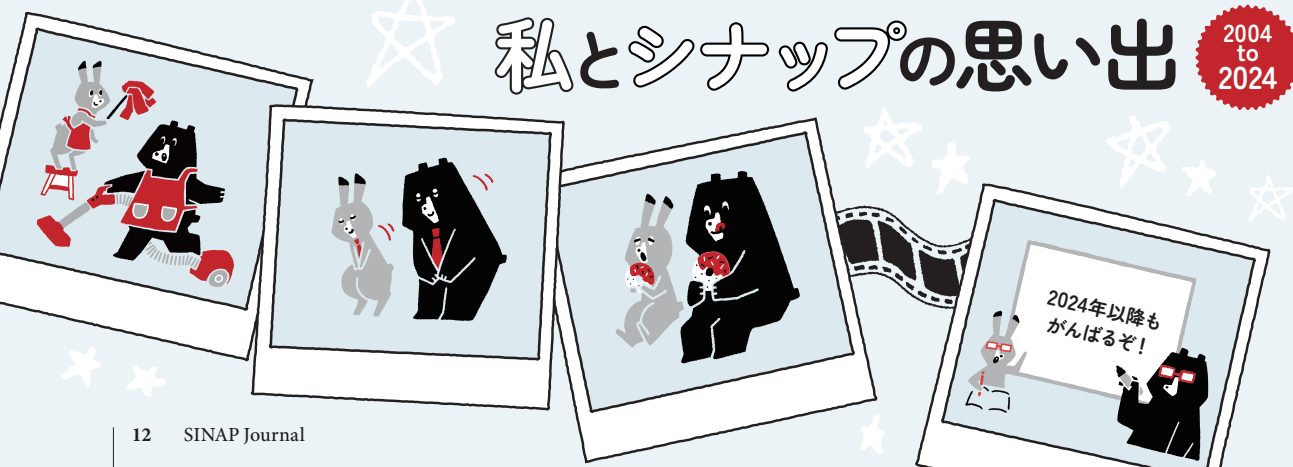
いつも参加できていたわけではありませんが、シナップさんの定例ミーティングでは、皆さんがそれぞれ専門の立場でより良い意見を出し合っているのが印象的でした。そのやり取りが自然に出ている感じで、オンラインでありながらスムーズに意見交換ができることも、シナップのチーム感を感じられる瞬間でした。打ち上げの飲み会も楽しかったです!



パートナー 田村 章吾

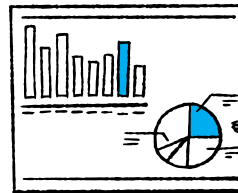
HTML・CSSのコーディング、ウェブアクセシビリティの対応を得意とする制作会社 ましめ株式会社の代表。CSS設計に関する著書の経験があり、効率的なCSS設計からCMS設計・構築を得意とします。また、焼き菓子を販売する「あしかっキー」の運営も行なっています。

私とシナップの思い出 2004 to 2024



数字でたどる! 20 years of SINAP

2004年から2024年までのシナップの歴史と変遷を数字でご紹介します。



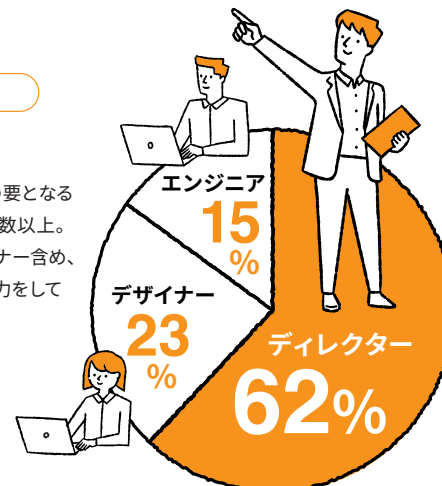
CULTURE
月1のチーム発表会
103回

2013年からスタート。
新しい手法や業界トレンド、業務効率化など
発表テーマを決めてチームでインプット。
全員の学びにつながるよう成果を発表します。



SOCIALGOOD
陸前高田へ移動した距離
およそ地球3周

2011年から復興支援プロジェクトとして、
約15名あまりのスタッフが岩手・陸前高田で
チャリティイベントやボランティア活動を行いました。



COMPANY
職種割合
お客様との伴走の要となる
ディレクターが半数以上。
頼りになるパートナー含め、
クリエイターと協力して
活動しています。

PERSONAL
メガネ率
40%
割とメガネです。

創業!

SOCIALGOOD
カリマンタン島へ植林した本数
150本以上!

2005年から2010年、ユーザー参加型のキャンペーンサイトを通じて
インドネシア・カリマンタン島への植林活動を行いました。

COMPANY
平均勤続年数
10.2年

入社して1年未満のスタッフから
創業メンバーまで長きに渡り
シナップを支えています。

CULTURE
新入社員の研修数
およそ30科目

シナップのメンバーが講師となり、職種や経験に合わせて
専門的なカリキュラムを個別に実施します。

20周年!



2024

MOVING.4
2022
HARAJUKU

MOVING.3
2020
OMOTESANDO

MOVING.2
2008
HARAJUKU

MOVING.1
2005
HARAJUKU

2004
AOYAMA

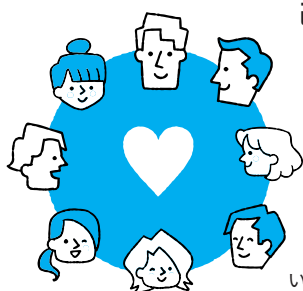
PERSONAL
住んでいるエリア
8箇所

一番離れている佐賀～新潟間は
1,000kmを超えています。
それでもリモートで繋がることで
日々スムーズに仕事を進めています。



CULTURE
改善サイクルアンケート
20回実施

2014年からスタート!
働く環境や仕組みをより良くするための
社員アンケートを半年に一度実施しています。
少しずつの積み重ねでも、継続すれば
いつかもの凄く良い会社になる。
そんな思いで続けています。



PERSONAL
ペットの数
イヌさん **1匹**
サカナ **6匹**
ネコさん **9匹**

半数を超えるメンバーがペットと暮らしていました。
社内の打合せやブログの記事などに度々登場しています。

9月からシナップのブログでも20周年を
お祝いするブログリレーがスタートします。
そちらもぜひお楽しみください!